

管内ブロイラー農場における高病原性鳥インフルエンザの発生概要

北部家畜保健衛生所

○阿部 敬 新居 友明 中島 有美子
木下 智秀

要 約

令和4年1月、管内約6万3千羽飼養の肉用鶏農場で高病原性鳥インフルエンザが発生した。今回、経験した防疫作業上の問題点と解決策を検討した。本事例では埋却地の確保、殺処分鶏の運び出し等に苦慮した。また、防疫資材保管施設での資材管理や搬出が難しく、資材管理にも人手と時間を要した。解決策として、初動防疫で使う資材について当所敷地内の貨物コンテナに資材を集約して保管するように、体制を整備した。現在、効率的な防疫対応のために、殺処分に入る際の交代家保とのローテーションの変更、待機家保、周辺家保等との役割分担の見直し、資材の供給体制の見直しを行っている最中である。本事例で苦慮した殺処分鶏の運び出しについても、県防疫演習で移動式ローラー等を活用した出荷間近のブロイラー搬出演習を実施した。今後も、随時体制の見直しを行い、有事に備えていきたい。

はじめに

令和4年1月19日に令和3年度県内2例目の高病原性鳥インフルエンザ（以下 HPAI）が管内肉用鶏農場で発生し、その防疫対応についてまとめたのでその概要を報告する。

農場概要

本農場はA市に所在し、2階建てのウインドレス鶏舎3棟で肉用鶏約6万3千羽を飼養していた。自宅が農場と同じ敷地内にあり、鶏舎周囲の敷地面積が狭かったことから、防疫作業を行う上で非常に不利な条件下での作業となった（図1）。

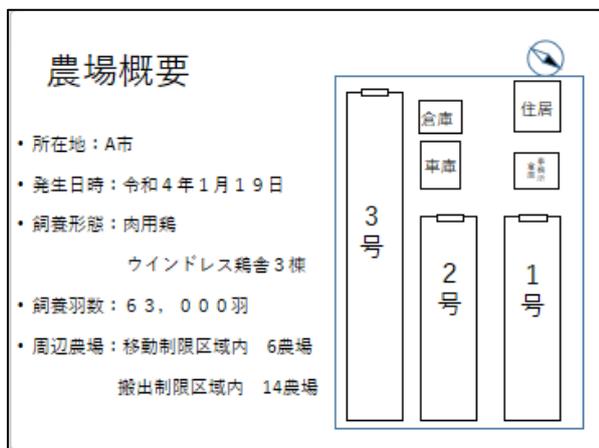


図1 農場概要

19日5時に防疫措置を開始し、20日18時に殺処分が終了、その後のペール詰めや清掃、消毒にはさらに時間を要し、防疫措置完了まで122時間要した。汚染物品の焼却、埋却完了までを含めると防疫措置開始から10日間を要した。

今回の防疫措置に要した時間は、国が定める「鳥インフルエンザ特定家畜伝染病防疫指針」に明記されている疑似患者の24時間以内の殺処分の完了、72時間以内の防疫措置完了の目安時間を大幅に超えた。防疫措置が遅れたのは、当初予定していた埋却地が使用できず、新たな処分先確保の調整に時間を要してしまったのが最大の理由であった（図2）。

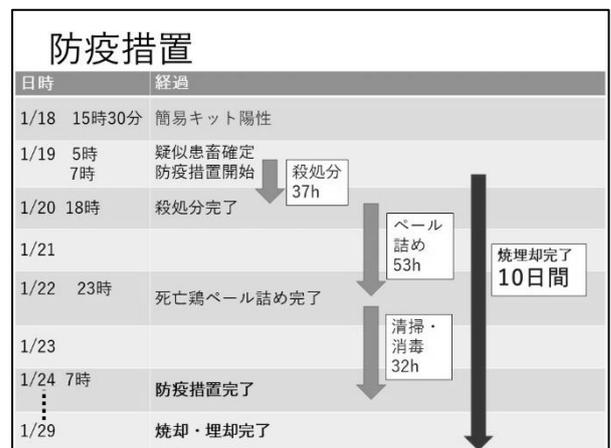


図2 防疫措置

防疫作業

防疫措置の時系列

1) 殺処分の概要

日齢の進んだブロイラーは体重が重く、自力での歩行が困難であったことから、コンパネを用いて追い込むことはできなかった。

さらに鶏舎床は鶏糞の堆積に加え、結露の影響もあり、悪条件下での運び出し作業となった。

図3のように一度、鶏糞の掻きだしを行い、台車が通れるスペースを確保しなければ運び出しができなかった。



図3 殺処分概要

2) 殺処分鶏の梱包

殺処分鶏の処理は当初、埋却を予定していたので、フレコンバッグに入れる想定で、ビニール袋に梱包した。鶏舎周囲の面積が狭かったことや野生動物対策も考慮して、ビニール詰めした鶏は殺処分が完了するまで鶏舎内に置いた。

図4のように、処分鶏からは体液が染み出し、後の防疫作業に支障をきたした。

防疫作業を進めていく中で、当初予定していた埋却地が使用できないと判明したため、新たな埋却地確保の調整に加え、焼却処理も同時にすすめることになった。そのため、ビニール詰めした処分鶏をパールに再度詰め替えることになった。



図4 処分鶏梱包の概要

3) パールの保管及び搬出

農場敷地内は狭く、鶏舎から搬出したパール詰め容器は1号鶏舎と2号鶏舎の間に3段詰めで一時保管した(図5)。これらのパールは最終的に焼却と埋却の同時並行で処分することになった。

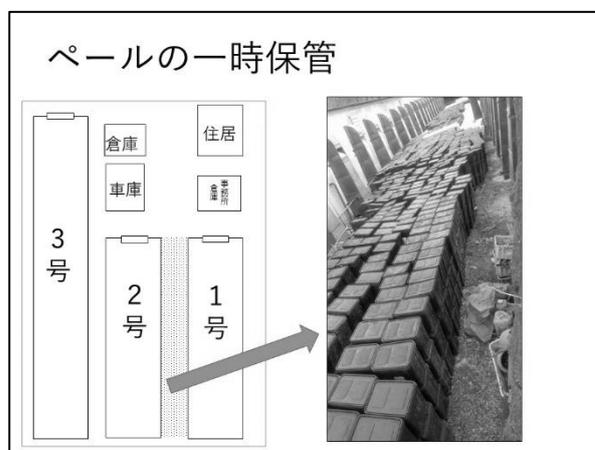


図5 パールの一時保管

焼却施設へパールを搬出するには、パレット上にパールを三段積みし、崩れないよう全体をラップ巻く必要があった(図6)。農場内にはこのような作業を行うスペース、さらには焼却場へ運搬する大型トラックの侵入スペースもなかった。

そこで、農場裏に位置する当初の埋却予定地を活用して、パレットへのパール積み作業、大型トラックへの積み込み作業を行った。農場に一時保管したパールを仮置き場まで搬出するには一度農場から外に出る必要があった。そのため、パール容

器を洗浄消毒してから軽トラで運搬を行った（図7）。ペール容器は浸みだした体液で汚れていたり、蓋が空いていたり、一部破損したものもあり、その洗浄、消毒作業にかなりの労力を要した。

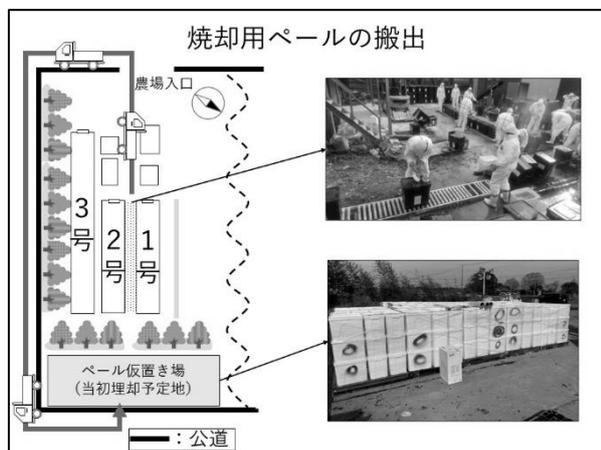


図6 焼却用ペールの搬出

地権者と交渉の末、1号鶏舎の隣の土地を埋却地として新たに確保できた。1号鶏舎と2号鶏舎に一時保管したペールを2方向から埋却場所まで搬出した。搬出にはローラーコンベアーを活用して人海戦術で運搬した。農場とペール仮置き場間の竹林の一部を伐採し、ペール仮置き場に作ったフレコン詰めペールをクローラフォークで埋却地まで運び、埋却した。

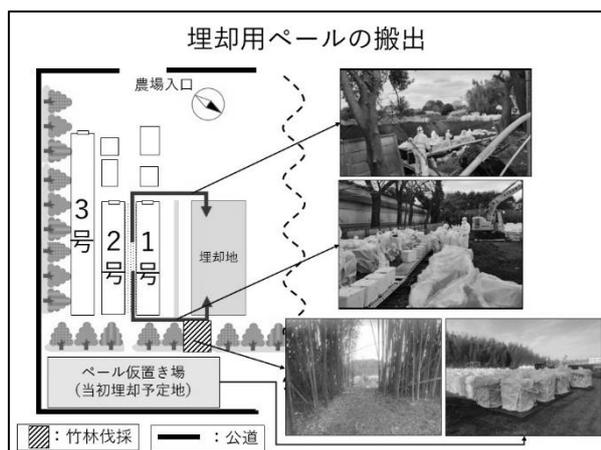


図7 埋却用ペールの搬出

問題点及び改善策

今回の防疫作業の問題点として、殺処分作業に苦慮した。日齢が進んだブロイラーは体が重いため、コンパネを使用しても自力で歩かない。さらに今回は鶏舎床の悪条件も重なり、運び出しに苦

労した。そこで、令和4年度、家保勉強会を開催し、ブロイラーの運び出し方法を検討した。勉強会を通じてカゴ台車やレールを用いたペールの運搬法、波板を用いたポリペールの運搬法について、有効性が確認できた。

また、ペール運搬時の負担軽減対策として、1ペールあたりの鶏投入羽数を日齢毎で整理した。1ペールあたりに投入する羽数を最初から決めておけば、その後の計数作業も簡略化される。

次に、防疫対応の役割分担が不明確であったことが課題であった。初動防疫資材の運搬や現地対策本部の運営補助を現地家保職員で対応せざるを得ない状況が、結果的に初動防疫の体制に支障をもたらした。この反省点から令和4年度、初動防疫資材を北部家保の資材コンテナに集約保管を行った。さらに、家保長会議を通じて、各家畜保健衛生所の役割分担を見直した。

最後に、今回の最大の問題点は、当初予定していた埋却候補地が使用できなかったことである。鶏舎周囲の敷地面積が狭く、汚染物品の仮置き場や資材置き場に制限があったことも今回の防疫作業の遅れを招いた要因である。この反省点を踏まえて、令和4年度、管内全養鶏場の埋却候補地の実効性について、再確認した。今回の事例のように農場敷地内が狭い場合、埋却地とは別に汚染物品の仮置き場の有無も課題となる。この点も踏まえて防疫計画の見直しを行った。万一の焼却対応も想定し、焼却施設との事前調整も実施中である。

問題点及び改善策①

・殺処分に苦慮

- 日齢が進んだブロイラーの搬出
- 鶏舎床の悪条件（鶏糞等）



・ブロイラーの運び出し方法の検討

・演習の実施

図8 問題点及び改善策①

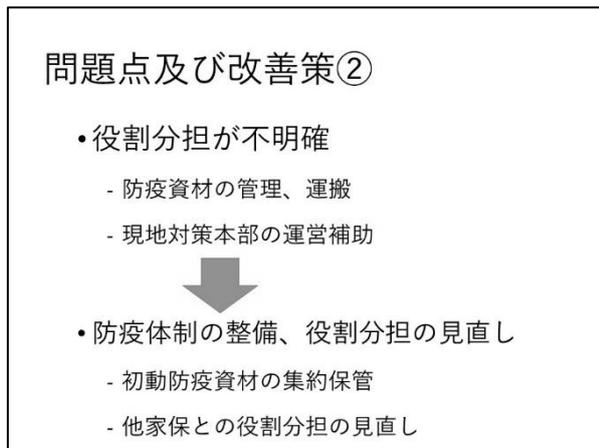


図 9 問題点及び改善策②

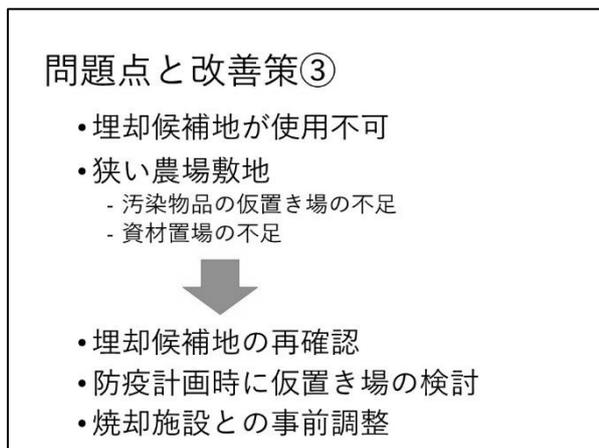


図 9 問題点及び改善策③

まとめ

今回の発生を通して、出荷間近のブロイラーの殺処分鶏の運搬方法について検討した。ブロイラーは日齢によって重量が大きく変わるので、日齢に応じた梱包羽数の検討も行った。資材の運搬方法についても、より効率的で負担の少ない方法に改善している最中である。円滑な防疫作業の遂行のためには現地対策本部と農場対策班が情報を共有し、関係機関と密接に連携、協力して対応することが必要である。

今後も、防疫措置の問題点については随時見直し、円滑な防疫対応に努めていくことが重要と考える。